

めぐみさんと べんごしさん

きょうから、プールびらきです。

でも、あめが ふって プールに はいれませんでした。

がっかりした たろうくんは つぶやきました。

「あーあ。あめなんて ふらなきや いいのに」

すると、うしろから こえがしました。

「じゃあ、ぜんぶ かえしてもらおうわ」

たろうくんが ふりかえると おないどしくらいの おんなのこが たって いました。

「きみは だれ？」

たろうくんが といかけると おんなのこは こたえました。

「わたしは めぐみ。すべての あめは わたしの ものよ」

たろうくんは あわてて いいました。

「それは こまるよ プールが ひからびちゃうよ」



「じゃあ、わたしと しょうぶ しましょう。

あなたが かったら、あめを あげるわ」

「よし！ どんな しょうぶでも うけて たつぞ！ なにを するんだい？」

「さいばんよ！」



けつきよく はなしを ききつけた そうりだいじんが たろうくんの だいを  
することに なりました。

せいふの しゅちようは こうです。

「あめは ひじょうに こうきようせい の たかいものであり  
こじんが しょうする べきでは ない！」



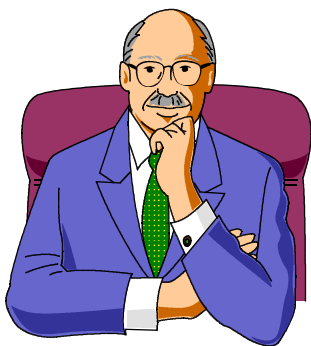
めぐみさんは べんごしを とおして  
こう しゅちよう しました。

「むかしから めぐみのあめ といって  
あめが めぐみさんの ものだと みんな しっている！」

こうへいな さいばんかんは せいふの しゅちようを しりぞけ  
めぐみさんの かんぜんしょうそと なりました。

めぐみさんは いいました。

「さあ あめを かえして もらうわ！」



そうりは ひっしで めぐみさんに おねがいを しました。

「おねがいます。あめを うばわないで ください。しじりつが さがってしまいます」

めぐみさんは こたえました。

「知らないわ そんなこと」

そうりは さらに あたまを さげました。

「おねがいます ひとびとが はたらけなく なったら

ぜいきんも とれなくなります」

めぐみさんは すこし おこって いいました。

「けんりを しゅちようして なにが わるいの？

しほうは わたしの みかたよ！」



すべての あめを 手に もって めぐみさんは どこかへ 行って しまいました。

そのひから あめが まったく ふらなく なりました。

しばらくして そうりは しつそうしました。

みんな とおいところに にげたんだと はなしています。

でも こんな うわさも あります。

ゆうしよくの したくを していると だれかが たずねて きたのだそうです。

そして かれは いうのです。

「わたしは もと そうりです。あめが ふらなくなったのは  
たろうくんの せいなんです」

あなたの ところにも そうりが たずねて くるかも しれません

おわり

あとがき

権利というのは暴力の一種です。誰かに権利があるということは、相手が死のうが泣いてすがろうが、自分はそれを行っていいということなのです。

法を作り、軍や警察を動かす国家や、巨額の富を動かす企業が暴走した場合、権利を使って自衛するしかありません。なぜかというと、強大な悪意には倫理や道徳が通じないからです。

しかし、暴力は人を傷つけます。むやみに使っていないものではありません。

権利を侵害されたと訴える前に、相手に悪意があるのか、自分の主張が通った場合、相手にそれ以上の不利益がかかりはしないかをよく考えなければいけません。

真に理想的な社会とは、皆が平等に権利を持っている世界ではありません。権利などという概念がなくても、皆が互いを肯定し、幸せに生活できる世界です。それこそが人類が目指すべきありかたなのだと思います。